

表2-33. 食事効果「6.家事援助の効率化」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	44.7	21.50
	少ない(25人以下)	47.3	25.04
配食ケース数	多い(4人以上)	47.7	4.23
	少ない(3人以下)	45.6	3.65
ケアプランへの導入	導入している	50.0	—
	導入していない	37.5	—
食事課題	多い(2個以上)	51.1	1.77
	少ない(1個以下)	41.8	1.45
公社配食利用	利用	48.8	—
	未利用	43.3	—
公社での職員体験	あり	46.7	—
	なし	46.0	—
協力会員講演体験	あり	54.5	—
	なし	45.1	—
試食体験	あり	46.7	—
	なし	47.1	—
紹介体験	あり	52.9	—
	なし	44.6	—
ケース共有体験	あり	50.0	—
	なし	40.5	—
やりづらい体験	あり	50.0	—
	なし	48.8	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	47.1	6.52
	低い(6個以下)	44.8	6.02
公社活動全体	高い(6個以上)	43.8	5.09
	低い(5個以下)	59.4	5.23
民間との違い認識	評価	54.2	—
	評価しない	25.9	—
人材育成機関と認識	評価	50.0	—
	評価しない	31.6	—
相対評価	高い(5個以上)	48.8	5.32
	低い(4個以下)	44.3	3.91
公社への期待	高い(4個以上)	58.5 **	4.70 ***
	低い(3個以下)	32.7	3.13
職種	包括	39.0	—
	ケアマネ	50.8	—
現職種の職務年数	1年未満	45.0	—
	1年以上3年未満	30.4	—
	3年以上	52.5	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	43.6	—
	10年以上	48.1	—
年齢階級	39歳以下	33.3	—
	40歳台	44.4	—
	50歳以上	51.7	—
性	男性	38.5	—
	女性	46.6	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

表2-34. 食事効果「7. 本人・家族の負担軽減」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	42.6	21.53
	少ない(25人以下)	47.3	25.08
配食ケース数	多い(4人以上)	47.7	4.12
	少ない(3人以下)	43.9	3.76
ケアプランへの導入	導入している	48.6	—
	導入していない	37.5	—
食事課題	多い(2個以上)	51.1	1.80 +
	少ない(1個以下)	40.0	1.43
公社配食利用	利用	48.8	—
	未利用	41.7	—
公社での職員体験	あり	53.3	—
	なし	43.7	—
協力会員講演体験	あり	54.5	—
	なし	44.0	—
試食体験	あり	60.0 +	—
	なし	40.0	—
紹介体験	あり	52.9	—
	なし	43.1	—
ケース共有体験	あり	48.4	—
	なし	40.5	—
やりづらい体験	あり	37.5	—
	なし	50.0	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	47.1	6.51
	低い(6個以下)	41.4	6.04
公社活動全体	高い(6個以上)	50.0	5.03
	低い(5個以下)	50.0	5.28
民間との違い認識	評価	51.4 +	—
	評価しない	29.6	—
人材育成機関と認識	評価	48.8	—
	評価しない	31.6	—
相対評価	高い(5個以上)	46.3	5.07
	低い(4個以下)	44.3	4.14
公社への期待	高い(4個以上)	50.9	4.28 +
	低い(3個以下)	38.8	3.50
職種	包括	41.5	—
	ケアマネ	47.5	—
現職種の職務年数	1年未満	40.0	—
	1年以上3年未満	39.1	—
	3年以上	49.2	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	48.7	—
	10年以上	44.4	—
年齢階級	39歳以下	45.8	—
	40歳台	33.3	—
	50歳以上	48.3	—
性	男性	30.8	—
	女性	47.7	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01,***; P <.001

表2-35. 食事効果「8. 会話による刺激」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	42.6	21.95
	少ない(25人以下)	45.5	24.56
配食ケース数	多い(4人以上)	43.2	4.03
	少ない(3人以下)	43.9	3.85
ケアプランへの導入	導入している	42.9	—
	導入していない	46.9	—
食事課題	多い(2個以上)	51.1	1.78
	少ない(1個以下)	38.2	1.46
公社配食利用	利用	46.3	—
	未利用	41.7	—
公社での職員体験	あり	53.3	—
	なし	42.5	—
協力会員講演体験	あり	72.7 *	—
	なし	40.7	—
試食体験	あり	63.3 *	—
	なし	37.1	—
紹介体験	あり	52.9	—
	なし	40.0	—
ケース共有体験	あり	48.4	—
	なし	37.8	—
やりづらい体験	あり	62.5	—
	なし	46.3	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	50.0 +	6.89 *
	低い(6個以下)	31.0	5.73
公社活動全体	高い(6個以上)	62.5 *	6.35 ***
	低い(5個以下)	34.4	4.03
民間との違い認識	評価	48.6	—
	評価しない	33.3	—
人材育成機関と認識	評価	48.8 +	—
	評価しない	26.3	—
相対評価	高い(5個以上)	56.1 *	5.60 *
	低い(4個以下)	36.1	3.74
公社への期待	高い(4個以上)	50.9	4.44 *
	低い(3個以下)	36.7	3.39
職種	包括	51.2	—
	ケアマネ	39.3	—
現職種の職務年数	1年未満	50.0	—
	1年以上3年未満	43.5	—
	3年以上	42.4	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	43.6	—
	10年以上	42.6	—
年齢階級	39歳以下	45.8	—
	40歳台	38.9	—
	50歳以上	45.0	—
性	男性	38.5	—
	女性	45.5	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01,***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01,***; P <.001

2) 配食サービスの課題

(1) 職種別分析

配食サービスの課題では、両職種共に、回答者の5割強が配食サービスの「経済的負担の大きさ」を指摘し、最大の課題と位置づけられている。

一方で両職種の違いも示されている。「閉じこもり」の危惧が高いのは、包括であることが示されている。一方で「利用者本人の好きなものが食べられない」はケアマネの回答が多い。

これらの結果は、包括は「介護予防的」視点での支援を重視し、ケアマネは、「在

宅生活の継続」での支援を重視するといった、利用者像の特徴に伴う支援方針が反映された結果と理解することができる。

一方、「調理能力や家事能力の低下」については、包括 26.8%、ケアマネ 19.7%と包括の比率は高いものの、両職種ともに回答率は低かった。

さらに、自由意見として、ケアマネから「味の単調さ」「時間指定等の制約の多さ」など食事の内容、利用方法についての課題がだされている。

表 2-36. ケアマネからの意見

- ・味付けが一定で飽きてしまう
- ・配達者との間でトラブルを起こしている
- ・時間の制限がある
- ・制約が多い。味が単調
- ・嫌いなものが食べられずに捨ててしまう

表 2-37. 配食サービスの課題（複数回答）

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	(%)	全体(102)
1. 受け取りのために行動が制限され、閉じこもりの推進になりかねない	48.8	24.6 *		34.3
2. 利用者本人の好きなものが食べられない	29.3	49.2 *		41.2
3. 調理能力や家事能力を低下させる	26.8	19.7		22.5
4. 経済面での負担が大きい	56.1	57.4		56.9

注 1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

3. 調布ゆうあい福祉公社に関する体験

1) 試食体験と利用者紹介体験

表 2-38 に示されるように、「試食体験」については、包括 41.5%、ケアマネ 21.3%で、10%水準で有意差が示されており、包括の方が試食体験が高いことが示されている。

また、表 2-39 に示されるように、「利用者紹介体験」についても、包括 48.8%、

ケアマネ 23.0%と有意差が示されており、こちらも包括の方が、「紹介体験」をもつ人が多いことが明らかにされている。

公社での学習や勤務の経験をもつ人の割合は、包括で7名で17.1%、ケアマネで16名26.2%と両職種に有意差はみられない。職員体験が包括7名、ケアマネ8名、協力会員は包括1名、ケアマネ

5名、ボランティアはケアマネ1名、講演会はケアマネ7名である。職員と協力会員等（協力会員+ボランティア+講演会）に比べると、職員に関しては、有意差はみられないが、協力会員等では、5%水準で差がみられ、ケアマネが多い。

表2-38. 会社のお弁当を試食されたことはありますか (%)

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. 試食したことがある	41.5	21.3 +	29.4
2. 試食したことはない	48.8	75.4	68.6
3. 無回答	0.0	3.3	2.0

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-39. 会社の相談員から、利用者を紹介されたことはありますか (%)

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. 紹介されたことがある	48.8	23.0 *	33.3
2. 紹介されたことはない	48.8	73.7	63.8
3. 無回答	2.4	3.3	2.9

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-40. 会社の相談員と一緒に、ケースを担当されたことがあるか (実数) %

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. 担当したことがある	68.3(28)	59.0(36)+	62.7
2. 担当したことはない	31.7	41.0	37.3

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-41. 会社での学習や勤務の体験 (回答者数) %

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. ある	17.1(7)	26.2(16)	22.5(23)
2. ない	82.9	73.8	77.5

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-42. 会社での学習や勤務「ある」人を対象とした具体的内容 (回答者数) %

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. 職員	17.1(7)	13.1(8)	14.7(15)
2. 協力会員	2.4(1)	8.2(5)	5.9(6)
3. ホームヘルパー2級講座を受講	0.0	0.0	0.0
4. ボランティア	0.0	1.6(1)	1.0(1)
5. 講演会に参加	0.0	11.5(7)	6.9(7)
6. その他	0.0	0.0	0.0

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-43. 公社での勤務体験

項目	(回答者数) %		
	包括(41)	ケアマネ (61)	全体 (102)
1. ある	17.1(7)	13.1(8)	14.7(15)
2. ない	82.9	86.9	85.3

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-44. 公社での協力会員や学習体験

項目	(回答者数) %		
	包括(41)	ケアマネ (61)	全体 (102)
1. ある	2.4(1)	16.4(10)*	10.8(11)
2. ない	97.6	83.6	89.2

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

4. 認知度とその内容

1) 職種分析

「調布ゆうあい福祉公社の名前を知っていますか」の設問では、ケアマネは全員、包括は、包括での勤務歴が短い3名を除いた全員が、「はい」と回答しており、保健福祉の専門職間での公社の知名度は浸透していることが示されている。さらに、公社の食事サービスにかかわる個々の内容について尋ねたところ、9個の設問に対して、6個以上知っていた回答者は、包括が84.2%、ケアマネが

63.9%で、10%水準で有意差がみられ、包括の方が、公社の活動を詳しく知っている人の割合が高いことが示された。表2-47に示されるように、個々の設問の回答率をみると、ケアマネが包括よりも回答率が高い設問は、⑦「安否確認」と⑥「食事の内容」である。特に、⑦「安否確認」については、ケアマネ回答者の全員が知っていた。しかし、他の多くの設問では、包括の回答率が高いことが示されている。この中で、統計的に有意差

表2-45. 調布ゆうあい福祉公社の名前は、ご存知でしたか

項目	%(実数)		
	包括(41)	ケアマネ (61)	全体 (102)
1. 知っていた	92.7	100.0 +	97.0
2. 知らなかった	7.3(3)	0.0	3.0
3. 無回答	0.0	0.0	0.0

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表2-46. 公社の活動内容-「知っていた」内容の数

項目	(%)		
	包括(38)	ケアマネ (61)	全体 (99)
1. 1~5個	15.8	36.1 +	28.3
2. 6個以上	84.2	63.9	71.7

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

表 2-48. 公社認識の回答率並び替え

	包括	ケアマネ
1	④利用内容 97.4%	⑦安否確認 100%
2	⑦安否確認 94.7	④利用内容 75.4
3	③市民参加 89.5	⑥弁当の内容 75.4
4	②利用対象者 86.8	①基本理念 75.4
5	①基本理念 76.3	③市民参加 67.2
6	⑥弁当の内容 68.4	②利用対象者 62.3
7	③相談機能 65.8	③相談機能 55.7
8	⑧不在時の安否 確認 57.9	⑧不在時の安否 確認 55.7
9	⑨電子レンジ対応 42.1	⑨電子レンジ対応 45.9

が確認されているのは、②利用者条件、④サービス内容、⑤市民のボランティアであり、包括の回答率が統計的にみても高いことが示されている。

両職種共にあまり知られていない公

社の配食サービス内容として、⑧不在時後の配達と安否確認、⑨電子レンジにかけられる弁当箱についてであった。

今後、両職種に対して、公社が広報をすべき内容は、⑧不在時後の配達と安否確認、⑨電子レンジにかけられる弁当箱である。また、ケアマネに広報が必要な項目は、③相談員の役割、②利用者条件、⑤市民ボランティア、についてであり、包括については、⑥食事の内容についてであることが示唆された。2) 要因分析
公社配食を認識している設問の数で認識の高さを図り、関連する要因との関係を明らかにする。

ニーズ要因分野では、ケアプランに配食サービスを導入している人ほど、公社配食に関する認識数が多いことが示されている。

公社体験分野では、「やりづらい体験」を除き、全ての項目で有意差が確認された。公社配食を利用している人ほど、試食体験のある人ほど、紹介体験のある人ほど、ケース共有体験のある人ほど、公社職員や、公社職員および講演参加体験

表 2-47. 公社の活動内容-「知っていた」人の比率(複数回答) (%)

項目	包括(38)	ケアマネ(61)	全体(99)
①基本理念は市民の助け合いと住み続けの支援	76.3	75.4	75.8
②利用対象者は、市内に住む65歳以上、心身に障害のある方、ひとり親家庭、病弱、産前産後の方	86.8	62.3 **	71.7
③公社の相談員に生活や健康上の悩みを相談できる	65.8	55.7	59.6
④家事援助と食事サービスを有料で利用できる	97.4	75.4 **	83.8
⑤弁当を作り、配達しているのは市民ボランティア	89.5	67.2 *	75.8
⑥弁当は栄養士がカロリー計算し、国産の新鮮な食材を用い、手作りされている	68.4	73.8	71.7
⑦お弁当を届ける際に利用者の安否を確認している	94.7	100.0 *	98.0
⑧不在の際も届け、後で安否の確認を行う	57.9	55.7	56.6
⑨弁当箱はそのまま、電子レンジにかけられる	42.1	45.9	44.4

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *; P<.05, **; P<.01

等のある人ほど、公社配食への認識数が多い。

公社評価分野における全ての項目において有意な差がみられた。相談活動を含めた「公社活動全体」の認識数が多いこと、民間と違いがあること、人材育成機関としての役割を認めていること、相対評価が高い人に公社配食認識数が多いという結果が示されている。「今後の期待」においては、有意差は認められなかった。配食の認識と「今後公社が取り組むべき事業数」（期待事業）とは別次元の内容であることが推察される。

キャリア要因分野においては、職種による違いはみられないが、職種の職務年

数、保健福祉の勤務歴において有意差がみられ、両者の勤務歴が長い程、公社配食の認識数が多いことが示された。属性分野において有意差を示す項目はみられなかった。

総合的にみると、公社配食の認識数が多い程、公社への評価が高くなることが示されている。公社配食の認識を高める要因としては、公社配食の利用と、試食体験、紹介体験・ケース共有体験、職員・講演体験と、直接公社とつながる機会があることで、公社への知識を深めていることが示される。勤務年数との関係もみられ、勤務年数が長い程、公社配食への知識が豊富なことが示されている。

表2-49. 公社配食に関する認識に関連する要因

項目	カテゴリ	活動のうち認知している項目数	
担当ケース数	多い(26人以上)	6.24	
	少い(25人以下)	6.25	
配食ケース数	多い(4人以上)	6.34	
	少い(3人以下)	6.13	
ケアプランへの導入	導入している	6.58	*
	導入していない	5.53	
食事効果	高い(5個以上)	6.57	
	低い(4個以下)	5.87	
食事課題	多い(2個以上)	6.09	
	少い(1個以下)	6.38	
公社配食利用	利用	7.20	***
	未利用	5.59	
公社職員体験	あり	8.07	**
	なし	5.93	
協力員講演体験	あり	6.18	
	なし	6.26	
試食体験	あり	7.66	***
	なし	5.69	
紹介体験	あり	7.06	*
	なし	5.83	
ケース共有体験	あり	6.84	**
	なし	5.59	
やりづらい体験	あり	6.75	
	なし	6.66	
公社活動全体	高い(6個以上)	7.72	***
	低い(5個以下)	6.06	
民間との違い認識	あり	6.76	**
	なし	5.33	
人材育成機関への評価	評価	6.61	*
	評価しない	5.37	
相対的評価	高い(5個以上)	6.95	*
	低い(4個以下)	5.77	
公社への期待度	高い(4個以上)	6.55	
	低い(3個以下)	5.92	
職種	包括	6.45	
	ケアマネ	6.11	
職種の職務年数	1年未満	5.15	*
	1年以上3年未満	6.00	
	3年以上	6.72	
保健福祉の勤務歴	10年未満	5.69	+
	10年以上	6.64	
年齢階級	39歳以下	6.33	
	40歳台	5.89	
	50歳以上	6.32	
性	男性	5.38	
	女性	6.38	
		6.25	

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は要因が2値の場合 t 検定、3値以上の場合は分散分析である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01, ***;<.001

5. 公社活動全体認識にみる公社評価

1) 職種分析

「公社の相談員と一緒に、ケースを担当されたことがあるか」については、表2-50に示すように、「ケースの共同体験あり」が、包括では、68.3%、ケアマネでは59.0%であり、10%水準で有意差がみられ、包括に「ケースの共同体験」比率が高いことが示された。

この「共同体験」のある回答者を対象に、公社の相談やサービス内容についての評価を行った結果を、表2-51にまとめた。設問の⑧「相談員から利用者情報の入手が可能」では、包括がケアマネよりも回答率が高いことが示された。

一方、包括がケアマネよりも評価が高かった項目は、②認知症を抱える利用者の見守り、④緊急対応の情報確認、⑤予防的利用、⑧相談員からの情報入手であった。また、ケアマネが包括よりも評価の高かった項目は、①食事利用で安心、③利用者変化の伝達、⑥柔軟な支援、⑦家族支援、⑨ネットワークと紹介であった。一方で、⑩「公社の相談員と担当を共にし、やりづらい体験がある」は、マイナ

ス評価の設問である。包括は14.3%、ケアマネは2.8%で、有意差が確認され、包括に「やりづらい体験」をもっていた回答者が多いことが示された。

表2-52. 公社活動全体認識の並替え

	包括	ケアマネ
1	⑤予防的利用 71.4%	③変化の伝達 75.0%
2	④緊急時の情報 67.9	⑤予防的利用 63.9%
3	⑧相談員の情報 67.9	⑥柔軟な支援 61.1
4	②認知症見守り 67.9	⑨ネットワークと紹介 61.1
5	③変化の伝達 60.7	②認知症見守り 58.3
6	⑥柔軟な支援 50.0	④緊急時の情報 55.6
7	⑦家族支援 42.9	⑦家族支援 50.0
8	⑨ネットワークと紹介 42.9	①食事利用で安心 50.0
9	①食事利用で安心 35.7	⑧相談員の情報 47.2

表2-50. 公社の相談員と一緒に、ケースを担当されたことがあるか (実数) %

項目	包括(41)	ケアマネ(61)	全体(102)
1. 担当したことがある	68.3(28)	59.0(36)+	62.7
2. 担当したことはない	31.7	41.0	37.3

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01

2) 要因分析

公社活動全体で各設問毎の回答において、6つの要因分野との関係で有意差の示された項目をまとめたのが、表2-54である。公社活動全体の設問は、「公

社の住民参加型サービスの相談員と一緒にケースを担当した」ことが前提条件となっており、全ての設問において、「ケースの共有」は有意差をもたらす項目にあげられている(表では省略)。

表 2-51. 会社の相談やサービス内容について「はい」回答者の比率(複数回答) (%)

項目	包括(28)	ケアマネ (36)	全体 (64)
①会社の食事が気に入り安心できた	35.7	50.0	75.8
②認知症利用者への見守り	67.9	58.3	62.5
③利用者変化への迅速な伝達	60.7	75.0	68.8
④緊急対応の際の情報確認	67.9	55.6	60.9
⑤比較的元気な時から予防的サービス利用が可能	71.4	63.9	67.2
⑥利用者ニーズを尊重した柔軟な支援	50.0	61.1	56.3
⑦利用者の家族支援も必要があれば行う	42.9	50.0	46.9
⑧相談員から利用者情報の入手が可能	67.9	47.2 +	56.3
⑨多様なネットワークにより他機関の紹介をうける	42.9	61.1	53.1
⑩会社の相談員と担当共にし、やりづらい体験あり	14.3	2.8 **	7.8

注1) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *; P<.05, **; P<.01

(1) 相談員からの情報入手

「相談員からの情報入手」は、会社とのケース共有体験回答者に対して「実感している」の回答率(以下、「実感率」)が56.3%で、会社配食の認識度が高いだけでなく、「民間違い」「人材育成」「相対評価」の3分野で、高い評価を導き出している。ニーズ要因では、担当数・配食利用者が多いこと、キャリア要因では、包括の職員であること、保健福祉の勤務歴が長いことがあげられている。会社の紹介体験があげられている。会社から紹介を受けた、保健福祉分野の勤務歴が長い包括の職員が、会社相談員から情報がえられることを認識し、会社の評価を高めている様子が伺える。設問⑩の「やりづらい体験」では、会社から紹介を受けた包括の職員の一部に不満体験をもつことが示されているが、その一方で、相談員から得られる利用者情報に、会社の評価を高めている多くの包括の職員がいることが明らかにされている。

(2) 家族支援

「家族支援」は、「実感率」が46.9%で、会社配食の利用者が多く、会社配食

の認識度が高いだけでなく、会社評価の「民間違い」と「相対評価」で、高い評価を導き出している。担当数、配食利用者数が多く、配食効果の選択肢が多いことが示されている。

(3) ネットワーク支援

「ネットワーク支援」では、「実感率」が53.1%で、会社配食の認識度が高いだけでなく、会社評価の「民間違い」と「相対評価」で高い評価を導き出し、期待事業も多い。

担当数・配食利用者数が多いこと、ケアプランに配食を入れていること、配食課題を多く指摘していることから、配食サービスを活用した質の高い支援を行っていることが推察される。会社職員の直接体験をもっていること、試食体験をもっていること、ケースの紹介体験をもっているなど、会社サービスと直接ふれる体験を多くもっており、会社の特徴をよく理解していると推察される。

(4) 会社配食が気に入り安心

「会社配食が気に入り安心」の認知は、「実感率」が75.8%で、会社配食の認識度が高いだけでなく、会社評価の「民間

違い」「人材育成機能」「相對評価」で、高い評価を導き出している。担当数・配食利用者数が多いこと、配食サービスをケアプランに含めていること、配食効果の評価項目が多いこと、公社体験では、公社配食を利用し試食体験及び紹介体験をもっていること、現職種の職務歴が長いことが明らかにされている。

配食サービスの効果を認識すると共に、ケアプランに配食サービス導入するなど、配食サービスの有効性を認めている職務歴が長い相談員が、公社配食を試食し、その内容の高さを実感し、住民参加による手作りの食事である面も含めて、公社を評価している様子が伺える。

(5) 認知症の見守り

「公社配食が気に入り安心」の認知は、「実感率」が62.5%で、公社配食の認識度が高いだけでなく、公社評価の「民間違い」「人材育成機能」「相對評価」で、高い評価を導き出している。担当数・配食利用者数が多いこと、配食課題を多く指摘していること、公社体験では、公社配食を利用し職員および紹介体験をもっていること、保健福祉分野の勤務歴が長いことが明らかにされている。また、「不満体験をもっている」こともあげられていることは予想に反する結果である。「やりづらい」体験はもっていても公社サービスと直接かかわる体験をもっていることで、認知症の見守りに有効なサービスであることを認めている。

(6) ニーズへの柔軟な対応

「公社配食が気に入り安心」の認知は、「実感率」が56.3%で、公社配食の認識度が高いだけでなく、公社評価の「民間

違い」「相對評価」で、高い評価を示している。担当数・配食利用者数が多いこと、職員体験があることが特徴である。

(7) 予防的利用

「予防的利用」の認知は、「実感率」が67.2%で、公社配食の認識度が高いだけでなく、公社評価の「人材育成機能」で、高い評価を導き出している。

担当数・配食利用者数が多いこと、公社の職員や研修を受ける等の直接体験をもっていること、ケースの紹介体験をもっているなど、公社サービスと直接ふれる体験を多くもっており、公社の特徴をよく理解していると推察される。

(8) 異変の伝達、緊急時の利用者情報

「異変の伝達」は、「実感率」が68.8%で、公社配食の認識数が多く公社の理解は高く「相對評価」が高い。担当数・配食利用者数が多いこと、保健福祉の勤務歴が長いこと、ケースの紹介体験をもっていることが示されている。

(9) 緊急時の利用者情報

「緊急時の利用者情報」は、「実感率」が60.9%で、公社配食の認識数が多く公社の理解は高く「相對評価」も高い。その他の評価には至っていない。配食課題を多く指摘していること、保健福祉の勤務歴が長いこと、公社職員体験をもっていること、ケースの紹介体験をもっていることが示されている。ニーズ要因との関連はみられない。

(10) やりづらいと感じた不満体験

「不満体験」は、これまでの設問とは異なり、公社に対し否定的な要素を導き出す設問である。「実感率」は、7.8%と僅かではあるが、存在する。公社の紹介

体験をもっていること、包括職員であることが示されている。公社評価では有意差のみられる項目は存在しない。

「不満体験」の具体的な内容については、表2-53の自由記述に示される。「介護保険サービスへの移行が大変」「ニーズ認識の違いを感じる時がある」「CM(ケアマネージャーの略)がいて、包括も関わっていたケース。長年公社の配食サービスを取り、会員だったことから、定期かは不明だが、公社の相談員が訪問して相談を受けていたが、CMも包括も全く知らず、本人も公社の人が時々来ると言っているが、何のための訪問かわからなかった。情報の共有ができておらず、本人はCMがいるのに相談先が二つあり、混乱していた」とされる。

今後の連携を考える上で、検討すべき課題と思われる。

表2-53. 包括からよせられた「やりづらい体験」の具体的な内容

- ・介護保険サービスへの移行が大変。
- ・ニーズ認識の違いを感じる時がある。
- ・CMがいて、包括も関わっていたケース。長年ゆうあいの配食サービスを取り、会員だったことから、定期かは不明だが、公社の相談員が訪問して相談を受けていたが、CMも包括も全く知らず、本人もゆうあいの人々が時々来ると言っているが、何のための訪問かわからなかった。情報の共有ができておらず、本人はCMがいるのに相談先が二つあり、混乱していた。

(11) まとめ

「不満体験」以外では、全ての設問が公社の利用体験をもっており、公社評価につながっている。さらに、公社体験においては、職務体験のみで有意差がみられ、協力会員講演体験にはみられなかったことも興味深い。

公社活動全体評価の回答と回答者の特徴と公社体験、公社評価との関連性は次のようである。公社配食を通じ、公社の相談員が、包括からも頼りにされている存在であることが、「相談員からの情報入手」の分析に現れている。この設問を選択した回答者は、福祉歴の長い包括の職員が多く、担当者数も配食サービス利用者数も多く、公社配食を利用し、公社配食の知識も豊富で、公社配食を民間とは違うと認識している。多忙な包括職員にとって、公社の相談員からの利用者情報は信頼のおける内容であり、頼りになるパートナーである。包括から頼られる存在であることが示されていると共に、そのような公社活用は、公社配食をよく知るキャリアの長い職員が行っていることが明らかにされている。

その他、福祉歴の長い職員の回答率が高かったのが「認知症の見守り」「異変の伝達」「緊急時の利用者情報」である。

公社の試食体験があり、公社評価と関連しているのは、「ネットワーク支援」と「公社配食が気に入り安心」である。

「公社配食が気に入り安心」は、職務年数が長い程、この選択肢の回答率が高い。

試食体験とも福祉歴とも関連がみられず、公社評価のみと関連がみられるのは「家族支援」「ニーズへの柔軟対応」

「予防的対応」である。公社の相談援助における固有の内容は、回答者の特性にかかわらず評価されている。

その他、負の体験である「やりづらい体験」は少数ではあるが存在し、「包括の職員であること」で関連がみられた。

表 2-54. 公社活動全体評価の関連要因

	ニーズ要因	配食評価	公社体験	公社評価	キャリア要因	属性
全体評価			公社配食 職員 試食	配食認識 民間違い 人材育成 相対評価		
●配食利用者数が多く、福祉歴の長い、包括の回答者の選択率が高い設問						
①相談員からの情報入手 (56.3)	担当数 配食数	—	公社配食 職員 紹介	配食認識 民間違い 人材育成 相対評価	包括 福祉歴	—
●福祉歴の長い回答者の選択率が高い設問						
⑤認知症の見守り (62.5)	担当数 配食数	課題	公社配食 職員 紹介 不満体験	配食認識 民間違い 人材育成	福祉歴	—
⑧異変の伝達 (68.8)	担当数 配食数	—	公社配食 紹介	配食認識	福祉歴	—
⑨緊急時の利用者情報 (60.9)	—	課題	公社配食 職員 紹介	配食認識	福祉歴	—
●試食体験があり、公社評価が高い回答者の選択率が高い設問						
③ネットワーク支援 (53.1)	担当数 配食数 プラン導入	課題	公社配食 職員 試食 紹介	配食認識 民間違い 期待	—	—
④公社配食が気にいり安心 (75.8)	担当数 配食数 プラン導入	効果	公社配食 試食 紹介	配食認識 民間違い 人材育成	職務年数	—
●配食利用者数多く、公社評価が高い回答者の選択率が高い設問						
②家族支援 (46.9)	担当数 配食数	効果	公社配食	配食認識 民間違い 相対評価	—	—
⑥ニーズへの柔軟な対応 (56.3)	担当数 配食数	—	公社配食 職員	配食認識 民間違い	—	—
⑦予防的利用 (67.2)	担当数 配食数	—	公社配食 職員 紹介	配食認識 人材育成	—	—
●包括の職員が多い設問						
⑩不満体験 (7.8) (やりづらい体験)	—	—	紹介	—	包括	—

表2-55. 公社活動全体に関する認識に関連する要因

項目	カテゴリ	活動のうち認知している項目数	
担当ケース数	多い(26人以上)	4.62	
	少い(25人以下)	5.60	
配食ケース数	多い(4人以上)	4.67	
	少い(3人以下)	5.44	
ケアプランへの導入	導入している	2.75	
	導入していない	2.76	
食事効果	高い(5個以上)	5.23	
	低い(4個以下)	5.04	
食事課題	多い(2個以上)	5.26	
	少い(1個以下)	5.03	
公社配食利用	利用	5.91	*
	未利用	4.24	
公社職員体験	あり	6.53	*
	なし	4.73	
協力会員講演体験	あり	2.64	
	なし	3.42	
試食体験	あり	6.00	+
	なし	4.83	
紹介体験	あり	5.23	
	なし	5.25	
ケース共有体験	あり	5.08	
	なし	7.50	
やりづらい体験	あり	4.25	
	なし	5.29	
公社配食認識	高い(7個以上)	5.67	**
	低い(6個以下)	2.92	
民間との違い認識	あり	5.77	**
	なし	3.31	
人材育成機関への評価	評価	5.57	**
	評価しない	3.18	
相対的評価	高い(5個以上)	6.76	***
	低い(4個以下)	4.13	
公社への期待度	高い(4個以上)	5.46	
	低い(3個以下)	4.74	
職種	包括	5.07	
	ケアマネ	5.22	
職種の職務年数	1年未満	5.18	
	1年以上3年未満	5.36	
	3年以上	5.10	
保健福祉の勤務歴	10年未満	4.70	
	10年以上	5.13	
年齢階級	39歳以下	4.77	
	40歳台	5.38	
	50歳以上	5.21	
性	男性	4.50	
	女性	5.23	

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は要因が2値の場合 t 検定、3値以上の場合は分散分析である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01, ***;<.001

表2-56. 公社活動全体「1. 公社食事が気にいる」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)		認識あり、なし項目 数やケース数 注3)	
担当ケース数	多い(26人以上)	36.2	+	26.04	
	少ない(25人以下)	20.0		24.80	
配食ケース数	多い(4人以上)	38.7	*	5.58	+
	少ない(3人以下)	17.5		4.17	
ケアプランへの導入	導入している	32.9	+	—	
	導入していない	15.6		—	
食事効果	高い(5個以上)	38.2	**	5.75	
	低い(4個以下)	14.9		4.79	
食事課題	多い(2個以上)	29.8		1.64	
	少ない(1個以下)	25.5		1.79	
公社サービス利用	利用	51.2	***	—	
	未利用	11.7		—	
公社での職員体験	あり	40.0		—	
	なし	25.3		—	
協力会員講演体験	あり	60.0		—	
	なし	43.9		—	
試食体験	あり	43.3	*	—	
	なし	21.4		—	
紹介体験	あり	41.2	*	—	
	なし	21.5		—	
ケース共有体験	あり	41.9	***	—	
	なし	5.4		—	
やりづらい体験	あり	37.5		—	
	なし	30.5		—	
公社配食の認識	高い(7個以上)	37.1	**	7.68	**
	低い(6個以下)	6.9		6.18	
民間との違い認識	評価	36.1	**	—	
	評価しない	7.4		—	
人材育成機関と認識	評価	33.8	*	—	
	評価しない	5.3		—	
相対評価	高い(5個以上)	34.1		5.68	*
	低い(4個以下)	23.0		3.15	
公社への期待	高い(4個以上)	28.3		4.43	
	低い(3個以下)	26.5		3.79	
職種	包括	24.4		—	
	ケアマネ	29.5		—	
現職種の職務年数	1年未満	20.0	+	—	
	1年以上3年未満	13.0		—	
	3年以上	35.6		—	
保健福祉の勤務歴	10年未満	20.5		—	
	10年以上	33.3		—	
年齢階級	39歳以下	125		—	
	40歳台	27.8		—	
	50歳以上	33.3		—	
性	男性	15.4		—	
	女性	29.5		—	

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *; <.05, **; <.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+; <.10, *; <.05, **; <.01, ***, P <.001

表2-57. 公社活動全体「2. 認知症の見守り」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	48.9 +	25.16
	少ない(25人以下)	31.5	26.48
配食ケース数	多い(4人以上)	50.0 *	5.09
	少ない(3人以下)	30.4	4.48
ケアプランへの導入	導入している	41.4	—
	導入していない	35.5	—
食事効果	高い(5個以上)	45.5	5.53
	低い(4個以下)	32.6	4.64
食事課題	多い(2個以上)	48.9 +	1.80
	少ない(1個以下)	31.5	1.59
公社サービス利用	利用	62.5 ***	—
	未利用	25.0	—
公社での職員体験	あり	60.0 +	—
	なし	36.0	—
協力会員講演体験	あり	60.0	—
	なし	64.9	—
試食体験	あり	53.3	—
	なし	34.8	—
紹介体験	あり	67.6 ***	—
	なし	26.6	—
ケース共有体験	あり	62.3 ***	—
	なし	5.4	—
やりづらい体験	あり	75.0 ***	—
	なし	42.0	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	53.6 ***	7.53 ***
	低い(6個以下)	10.3	5.68
民間との違い認識	評価	46.5 +	—
	評価しない	25.9	—
人材育成機関と認識	評価	45.6 +	—
	評価しない	21.1	—
相対評価	高い(5個以上)	48.8	5.40 **
	低い(4個以下)	33.3	2.36
公社への期待	高い(4個以上)	43.4	4.25
	低い(3個以下)	35.4	3.86
職種	包括	47.5	—
	ケアマネ	34.4	—
現職種の職務年数	1年未満	30.0	—
	1年以上3年未満	30.4	—
	3年以上	46.6	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	28.2 *	—
	10年以上	49.1	—
年齢階級	39歳以下	29.2	—
	40歳台	38.9	—
	50歳以上	44.1	—
性	男性	23.1	—
	女性	41.4	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, P <.001

表2-58. 公社活動全体「3.異変の伝達」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	55.3 *	26.90
	少ない(25人以下)	32.7	23.89
配食ケース数	多い(4人以上)	63.6 ***	5.35
	少ない(3人以下)	28.1	4.06
ケアプランへの導入	導入している	48.6	—
	導入していない	31.3	—
食事効果	高い(5個以上)	49.1	5.23
	低い(4個以下)	36.2	5.00
食事課題	多い(2個以上)	48.9	1.66
	少ない(1個以下)	38.2	1.72
公社サービス利用	利用	65.9 ***	—
	未利用	28.3	—
公社での職員体験	あり	60.0	—
	なし	40.2	—
協力会員講演体験	あり	80.0	—
	なし	70.2	—
試食体験	あり	53.3	—
	なし	40.0	—
紹介体験	あり	55.9 +	—
	なし	38.5	—
ケース共有体験	あり	67.7 ***	—
	なし	5.4	—
やりづらい体験	あり	50.0	—
	なし	48.8	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	52.9 **	7.11
	低い(6個以下)	24.1	6.44
民間との違い認識	評価	48.6	—
	評価しない	33.3	—
人材育成機関と認識	評価	47.5	—
	評価しない	31.6	—
相対評価	高い(5個以上)	46.3	4.93 *
	低い(4個以下)	41.0	2.61
公社への期待	高い(4個以上)	50.9	4.43 *
	低い(3個以下)	34.7	3.22
職種	包括	41.5	—
	ケアマネ	44.3	—
現職種の職務年数	1年未満	35.0	—
	1年以上3年未満	30.4	—
	3年以上	50.8	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	28.2 *	—
	10年以上	51.9	—
年齢階級	39歳以下	29.2	—
	40歳台	50.0	—
	50歳以上	46.7	—
性	男性	23.1	—
	女性	45.5	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01,***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01,***; P <.001

表2-59. 公社活動全体「4. 緊急時の利用者情報」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)	
担当ケース数	多い(26人以上)	42.6	24.63	
	少ない(25人以下)	34.5	27.08	
配食ケース数	多い(4人以上)	45.5	5.06	
	少ない(3人以下)	31.6	4.63	
ケアプランへの導入	導入している	40.0	—	
	導入していない	34.4	—	
食事効果	高い(5個以上)	40.0	5.03	
	低い(4個以下)	36.2	5.32	
食事課題	多い(2個以上)	48.9	1.79	*
	少ない(1個以下)	29.1	1.52	
公社サービス利用	利用	61.0	—	***
	未利用	23.3	—	
公社での職員体験	あり	66.7	—	*
	なし	33.3	—	
協力会員講演体験	あり	60.0	—	
	なし	61.0	—	
試食体験	あり	50.0	—	
	なし	34.3	—	
紹介体験	あり	55.9	—	*
	なし	30.8	—	
ケース共有体験	あり	61.3	—	***
	なし	2.7	—	
やりづらい体験	あり	37.5	—	
	なし	43.9	—	
公社配食の認識	高い(7個以上)	47.1	7.26	+
	低い(6個以下)	20.7	6.32	
民間との違い認識	評価	41.7	—	
	評価しない	33.3	—	
人材育成機関と認識	評価	42.5	—	
	評価しない	26.3	—	
相対評価	高い(5個以上)	46.3	5.15	*
	低い(4個以下)	32.8	3.00	
公社への期待	高い(4個以上)	45.3	4.26	
	低い(3個以下)	30.6	3.84	
職種	包括	46.3	—	
	ケアマネ	32.8	—	
現職種の職務年数	1年未満	40.0	—	
	1年以上3年未満	34.8	—	
	3年以上	39.0	—	
保健福祉の勤務歴	10年未満	23.1	—	*
	10年以上	44.4	—	
年齢階級	39歳以下	33.3	—	
	40歳台	50.0	—	
	50歳以上	36.7	—	
性	男性	38.5	—	
	女性	38.6	—	

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01,***; P <.001

表2-60. 公社活動全体「5. 予防的利用」を形成する要因

項目	カテゴリ	認識ありの 比率 注2)	認識あり、なし項目 数やケース数 注3)
担当ケース数	多い(26人以上)	55.3 *	27.26
	少ない(25人以下)	31.0	22.67
配食ケース数	多い(4人以上)	61.4 ***	5.54 **
	少ない(3人以下)	26.3	3.76
ケアプランへの導入	導入している	47.1	—
	導入していない	31.3	—
食事効果	高い(5個以上)	47.3	5.23
	低い(4個以下)	36.2	4.95
食事課題	多い(2個以上)	48.9	1.72
	少ない(1個以下)	36.4	1.62
公社サービス利用	利用	56.1 *	—
	未利用	33.3	—
公社での職員体験	あり	73.3 **	—
	なし	36.8	—
協力会員講演体験	あり	80.0	—
	なし	66.1	—
試食体験	あり	53.3	—
	なし	38.6	—
紹介体験	あり	58.8 *	—
	なし	3.1	—
ケース共有体験	あり	67.7 ***	—
	なし	2.7	—
やりづらい体験	あり	50.0	—
	なし	47.6	—
公社配食の認識	高い(7個以上)	54.3 **	7.19 +
	低い(6個以下)	17.2	6.29
民間との違い認識	評価	47.2	—
	評価しない	33.3	—
人材育成機関と認識	評価	47.5 +	—
	評価しない	26.3	—
相対評価	高い(5個以上)	56.1	5.60 ***
	低い(4個以下)	32.8	1.67
公社への期待	高い(4個以上)	50.9	4.33
	低い(3個以下)	32.7	3.62
職種	包括	48.8	—
	ケアマネ	37.7	—
現職種の職務年数	1年未満	40.0	—
	1年以上3年未満	34.8	—
	3年以上	45.8	—
保健福祉の勤務歴	10年未満	35.9	—
	10年以上	42.6	—
年齢階級	39歳以下	41.7	—
	40歳台	61.1	—
	50歳以上	36.7	—
性	男性	38.5	—
	女性	42.0	—

注1) クロス表は、当該項目のみに欠損値をもっているケースを除外している。

注2) 検定は χ^2 検定である。+; <.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, ,***; P <.001

注3) 検定はt検定である。+;P<.10, *;P<.05, **;P<.01, ***, P <.001